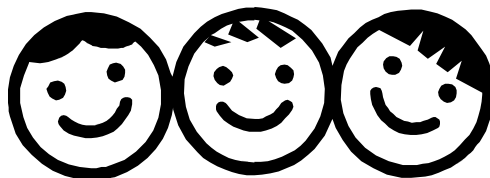


高 校 生 の 男 女 共 同 参 画 と 男 女 間 の 暴 力 に 関 す る ア ン ケ ー ト 調 査 結 果 に つ い て



平成24年2月

鹿角市市民部市民共動課

調査の概要

1. 調査目的

男女共同参画社会の実現に向けて、男女共同参画について考えるきっかけづくりや人権教育の推進などを図り、男女がそれぞれを認め合い、思いやる関係の構築と格差・差別、暴力のない社会を目指すため、潜在化しがちなDVについての認識を浸透させていきたいと考えています。

本調査では、高校生における男女共同参画と異性に対する暴力の意識に関する実態の把握を行うことで、今後の若年層に向けた男女共同参画事業の参考とし、男女共同参画施策に役立てていくことを目的としています。

2. 調査対象

鹿角市内の公立高校(花輪高校、十和田高校)に在籍する高校2年生を対象としました。

3. 調査方法

鹿角市内の協力校に対して、調査表の配布・回収を行いました。

クラス担任を通じて生徒に調査票を配付してもらい、調査票の記入後は生徒自身の手で回収箱に投入することにより、回答内容が本人以外の目に触れないように配慮しました。

4. 調査期間

平成23年9月1日(木)から9月30日(金)まで

5. 調査内容

結婚や性別役割分担に対する意識について、学校における男女共同参画について、デートDVの認知度について、暴力に対する考え方や見方の違いについて

6. 調査結果

調査票送付数	276
調査票回収数	270
回収率	97.8%

7. アンケート集計結果の公表について

本調査の集計結果は、各校に配布するほか、市ホームページ上で公開します。また、鹿角市男女共同参画推進会議に報告するとともに、必要に応じて市民に周知し、若年層に向けた男女共同参画施策の企画立案の基礎資料といたします。

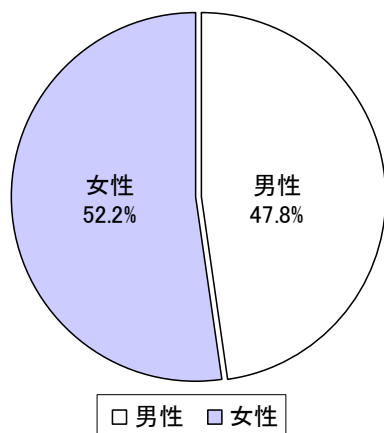
その際、学校名の記載は行わず、統計的に取り扱うこととします。

※複数回答など集計困難なものは、無回答に含んでおります。

※調査結果の割合は、小数点以下第2位を四捨五入しており、一部合計がずれる場合があります。

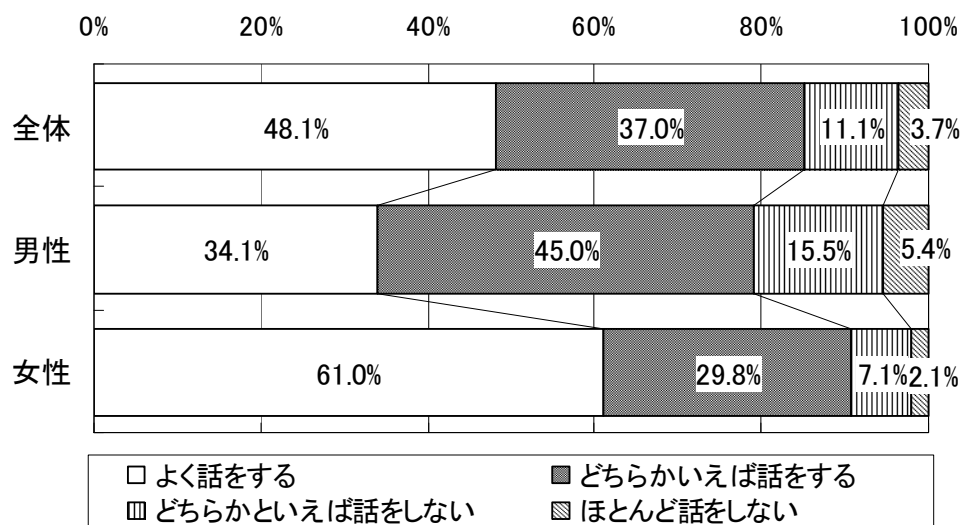
回答者の属性

1. 性別



回答者の男女比は、ほぼ同じです。

2. ふだん家族と会話する程度



《全 体》

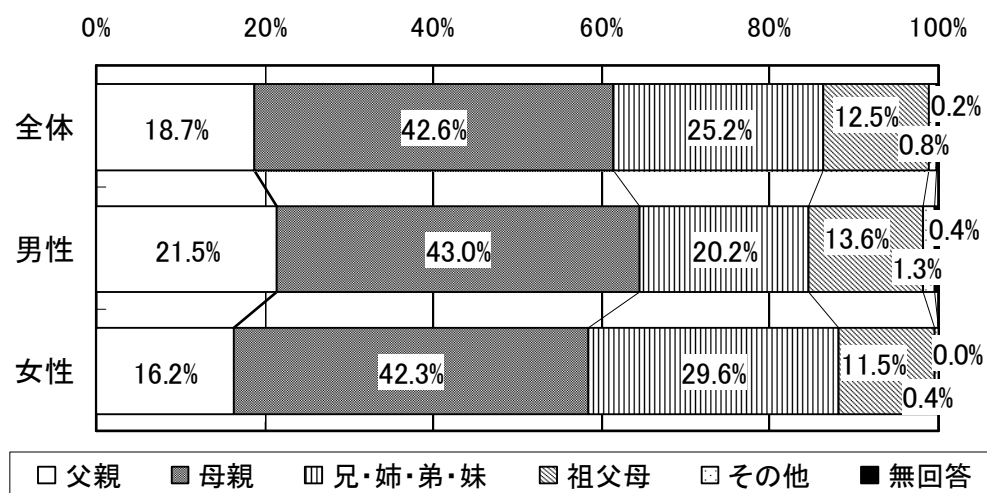
全体では、約半数が「よく会話をする」と回答しています。

《性 別》

性別でみると、女性は61.0%が「よく話をする」と回答しており、男性よりも約27ポイント高くなっています。ただ、男性も「よく話をする」「どちらかといえば話をする」を合わせると79.1%であり、男女のポイント差は大きくないようです。

一方、話をしない割合は、男性は20.9%（「ほとんど話をしない」15.5%、「どちらかといえば話をしない」5.4%）と回答しており、女性よりも約12ポイント高くなっています。

3. よく話をする家族



《全 体》

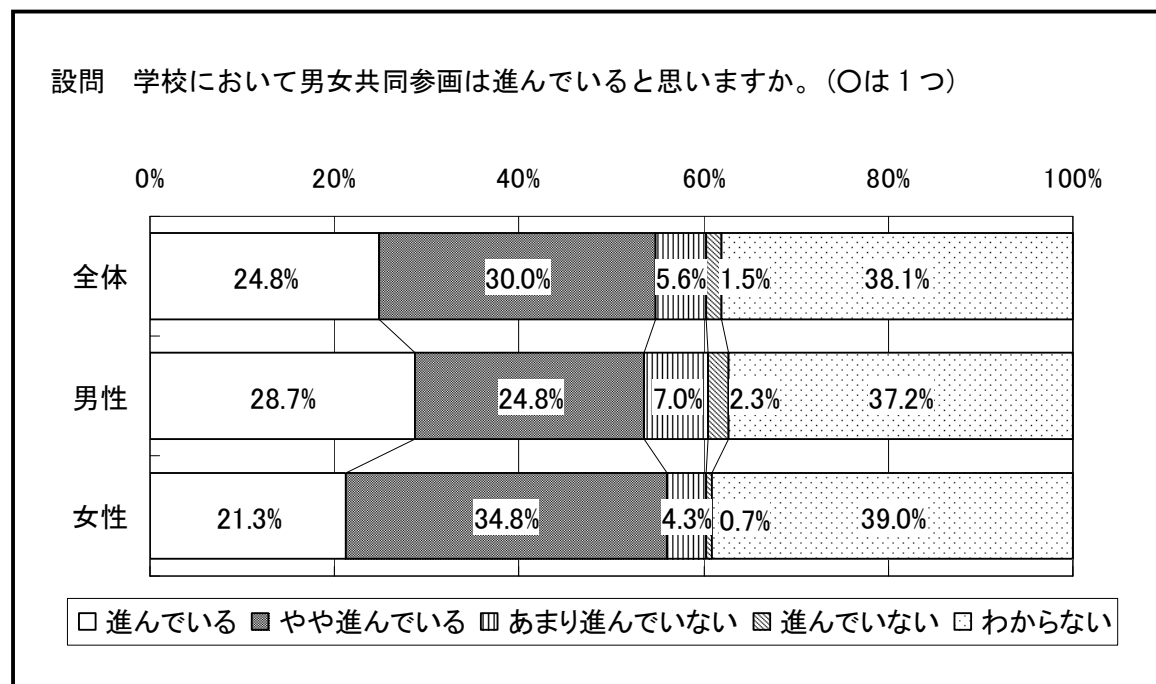
よく話をする家族では、「母親」（42.6％）に次いで「兄・姉・弟・妹」（25.2％）であり、「父親」と回答したのは 18.7％にとどまっています。その他には、「家族全員」「話さない」と回答がありました。

《性 別》

性別でみると、よく話をする家族は、女性が男性より「兄・姉・弟・妹」の割合が高く、男性は女性より「父親」の割合が高くなっています。

調査の結果

1. 学校における男女共同参画について



《全 体》

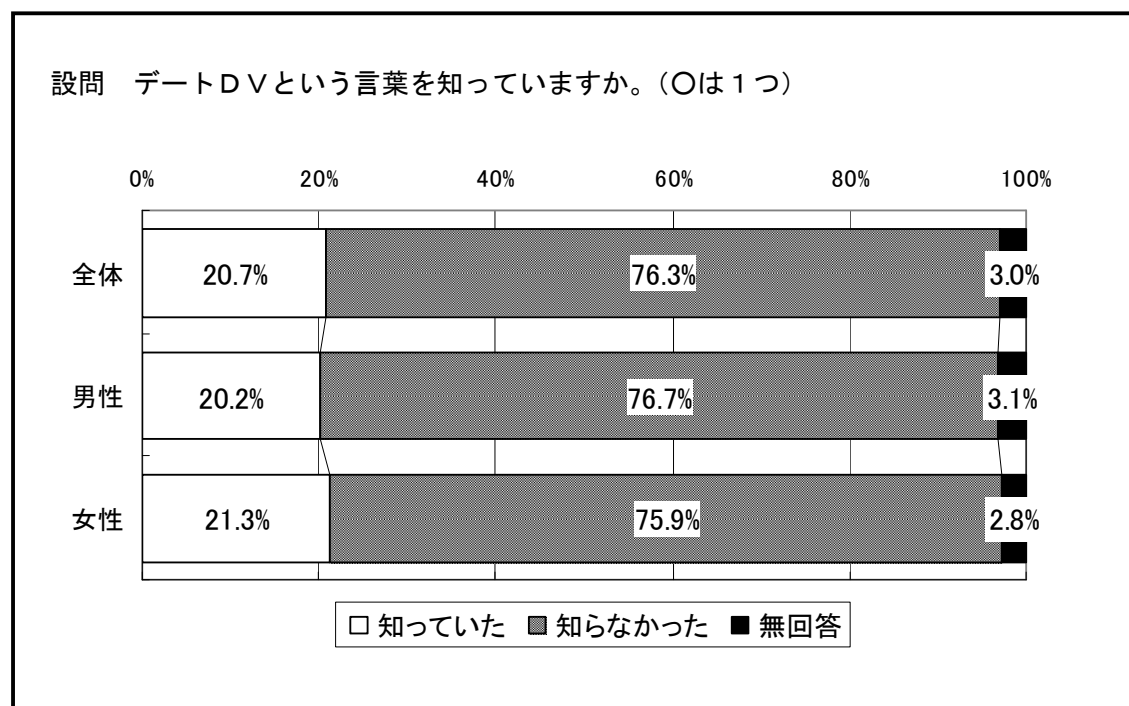
全体では、約 40%が「わからない」と回答しています。

《性 別》

性別でみると、学校における男女共同参画について、男性は 28.7%が「進んでいる」と回答しており、女性より約 7 ポイント高くなっています。ただ、女性も「進んでいる」「やや進んでいる」を合計すると、男女のポイント差（男性：53.5%、女性：56.1%）は小さくなっています。

一方、男女ともに「わからない」割合が同様に高く、男女共同参画の認知度は低いようです。

2. デートDVの認知度について



《全 体》

全体では、約80%が「知らなかった」と回答しています。

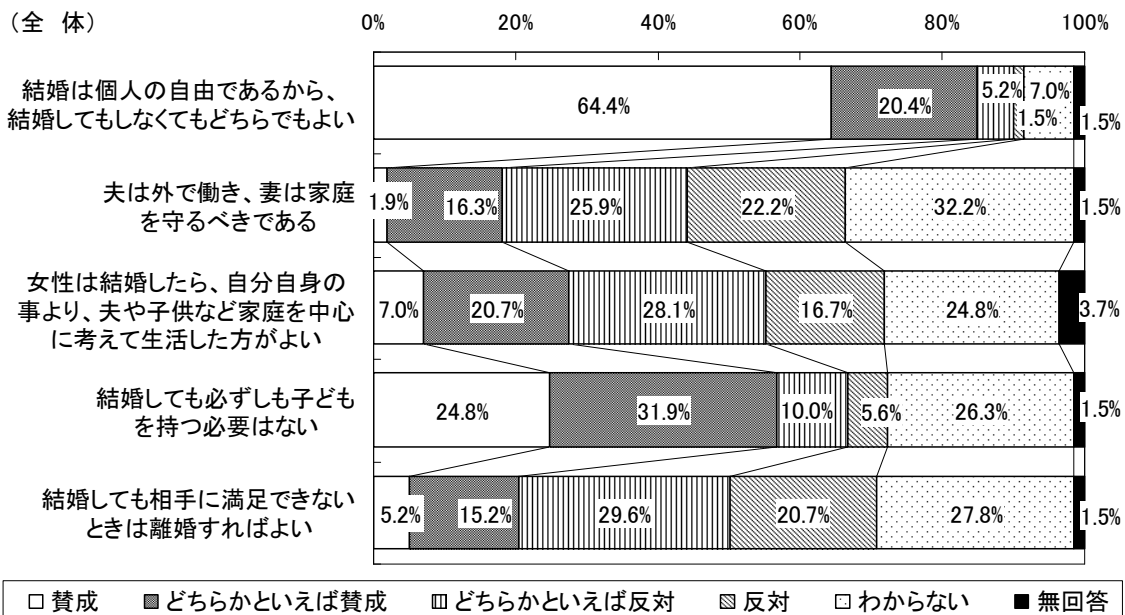
《性 別》

性別でみると、「知っていた」割合（男性：20.2%、女性：21.3%）と「知らなかった」割合（男性：76.7%、女性：75.9%）は、男女の差は小さくなっています。

男女とも「知っていた」割合が低く、デートDVの認知度及び浸透度が低い事が見て取れます。

3. 結婚、家庭、離婚に対する考え方

設問 結婚、家庭、離婚について、あなたの意見を教えてください。(〇はそれぞれに1つ)



《全 体》

「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」という考えに対して、「賛成」(64.4%)「どちらかといえば賛成」(20.4%)を合わせると84.8%になっていて、高い割合を示しています。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えに対しては、反対する割合のほうが高く、「反対」(22.2%)「どちらかといえば反対」(25.9%)を合わせると、賛成する割合よりも約30ポイント高くなっています。

「女性は結婚したら、自分自身の事より、夫や子供など家庭を中心に考えて生活した方がよい」という考えに対しては、反対する割合のほうが高く、「反対」(16.7%)「どちらかといえば反対」(28.1%)を合わせると、賛成する割合よりも約17ポイント高くなっています。

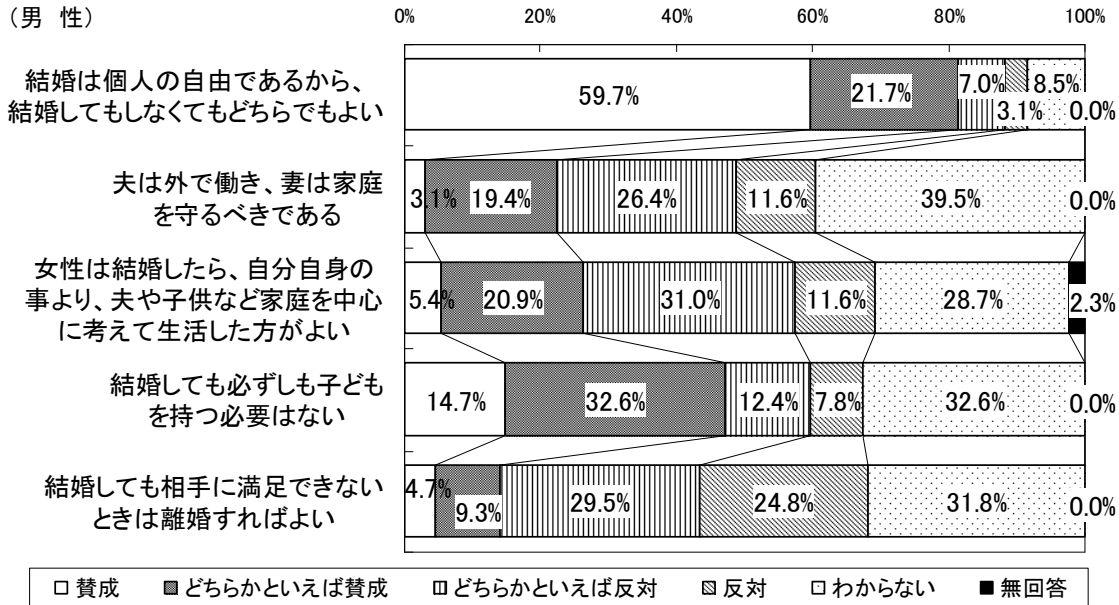
「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」という考えに対しては、賛成する割合が高く「賛成」(24.8%)「どちらかといえば賛成」(31.9%)を合わせると56.7%となっています。

「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」という考えに対しては、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」の回答とほぼ同様の割合となっていて、反対する割合が高くなっています。

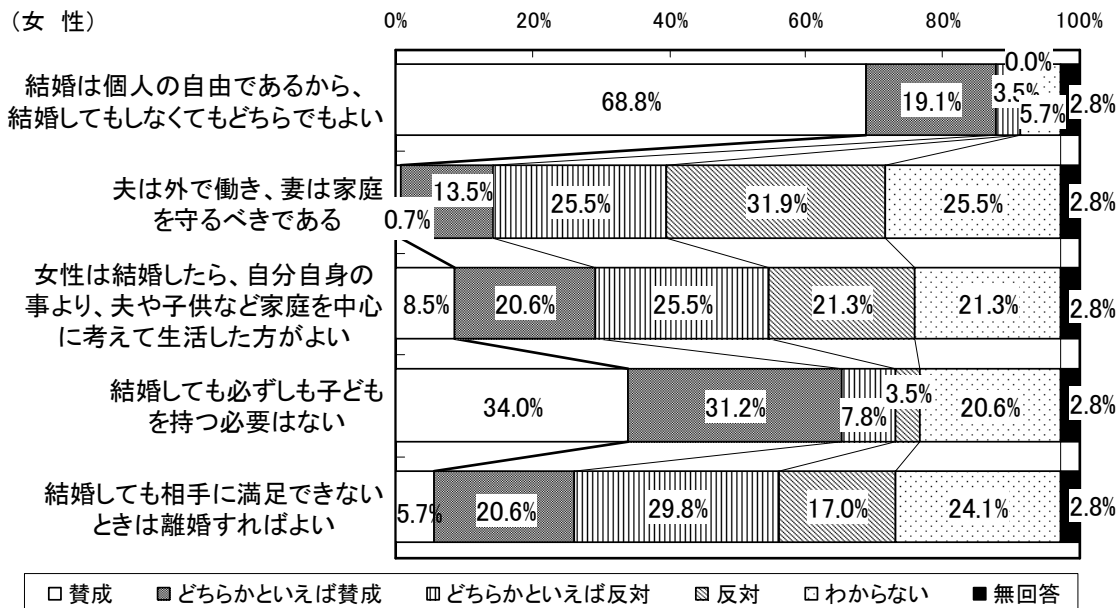
設問 結婚、家庭、離婚について、あなたの意見を教えてください。(〇はそれぞれに1つ)

【性 別】

(男 性)



(女 性)

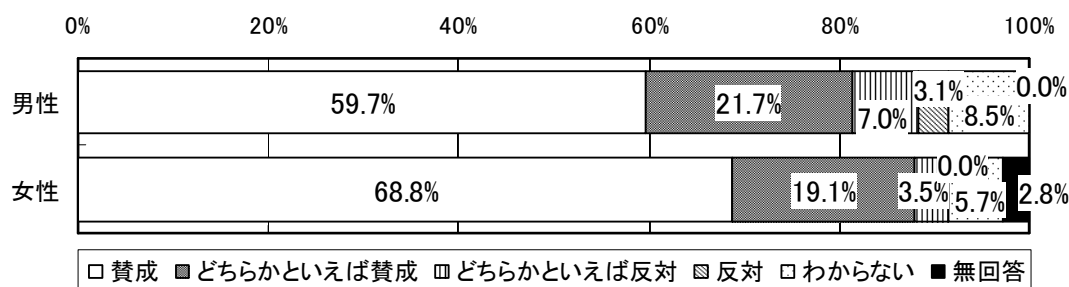


《性 別》

男女ともに結婚は義務ではなく自由と考える割合が高くなっています。

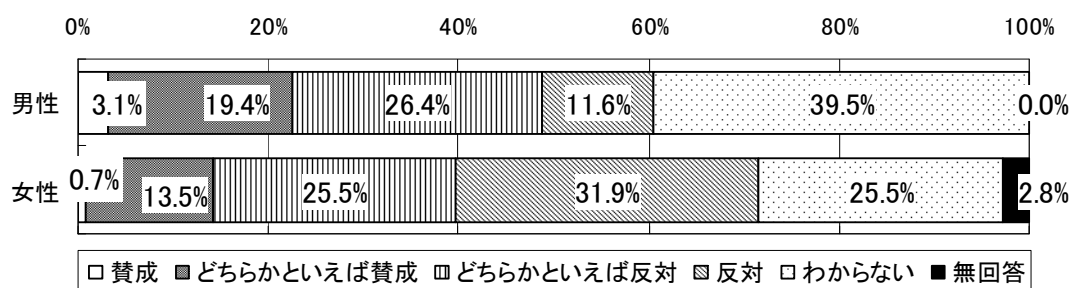
男性よりも女性で、性別役割分担に対して否定的な傾向がうかがえます。また、概ね男性のほうが女性よりも「わからない」と回答した割合が高くなっていて、結婚や家庭に対する現実感が希薄であると推察されます。

(1) 結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい



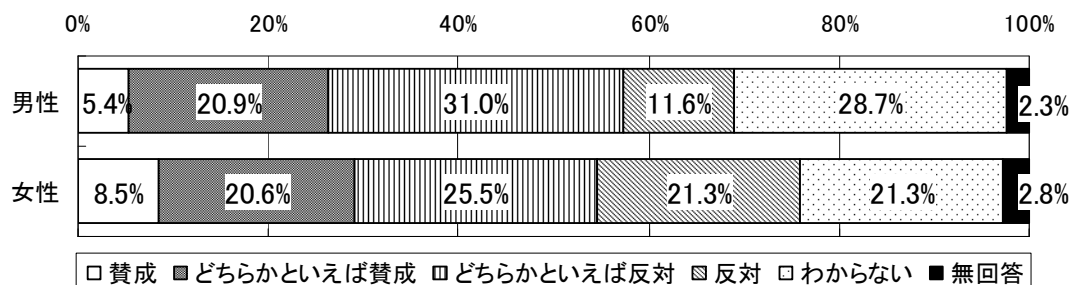
「結婚は個人の自由であるから、結婚してもしなくてもどちらでもよい」という考えに対して、女性は87.9%（「賛成」68.8%、「どちらかといえば賛成」19.1%）が賛成意見であり、男性よりも高い割合を示しています。

(2) 夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである



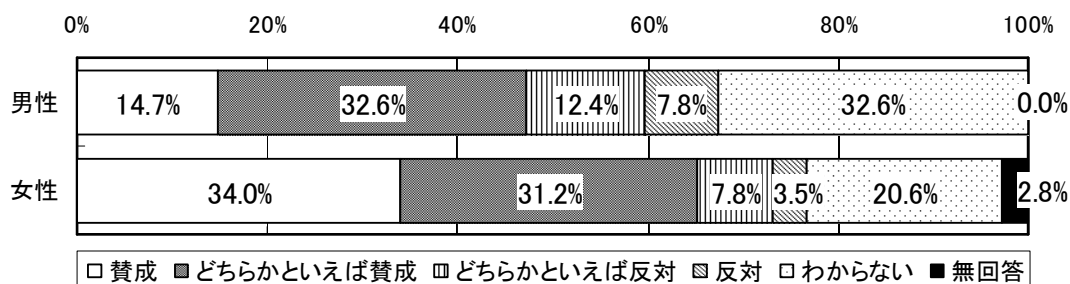
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考えに対しては、女性は57.4%（「反対」31.9%、「どちらかといえば反対」25.5%）が、反対意見であるのに対して、男性は38.0%（「反対」11.6%、「どちらかといえば反対」26.4%）で、約19ポイントの差があります。

(3) 女性は結婚したら、自分自身の事より、夫や子供など家庭を中心に考えて生活した方がよい



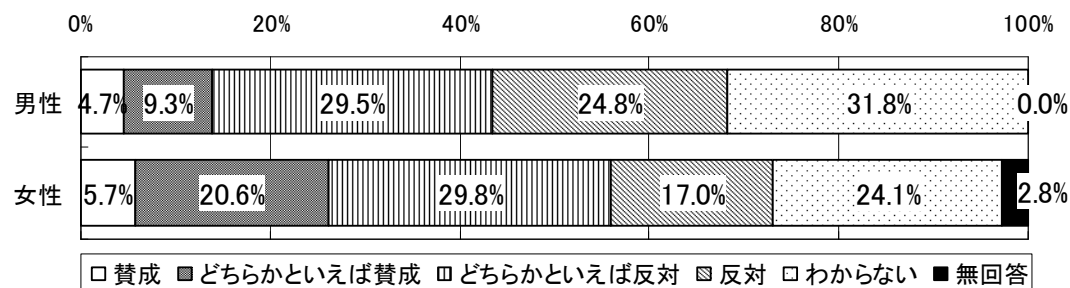
「女性は結婚したら、自分自身の事より、夫や子供など家庭を中心に考えて生活した方がよい」という考えに対しては、男女の意識差は小さくなっています。また、男女とも賛成意見より反対意見の割合が高くなっています。「夫は仕事、妻は家庭」と決め付けられなくなり、家族中心の生活を敬遠する人がいることがうかがえます。

(4) 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない



「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」という考えに対しては、女性で65.2%（「賛成」34.0%、「どちらかといえば賛成」31.2%）と賛成する割合が高く、男性の47.3%（「賛成」14.7%、「どちらかといえば賛成」32.6%）を約18ポイント上回っています。

(5) 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい

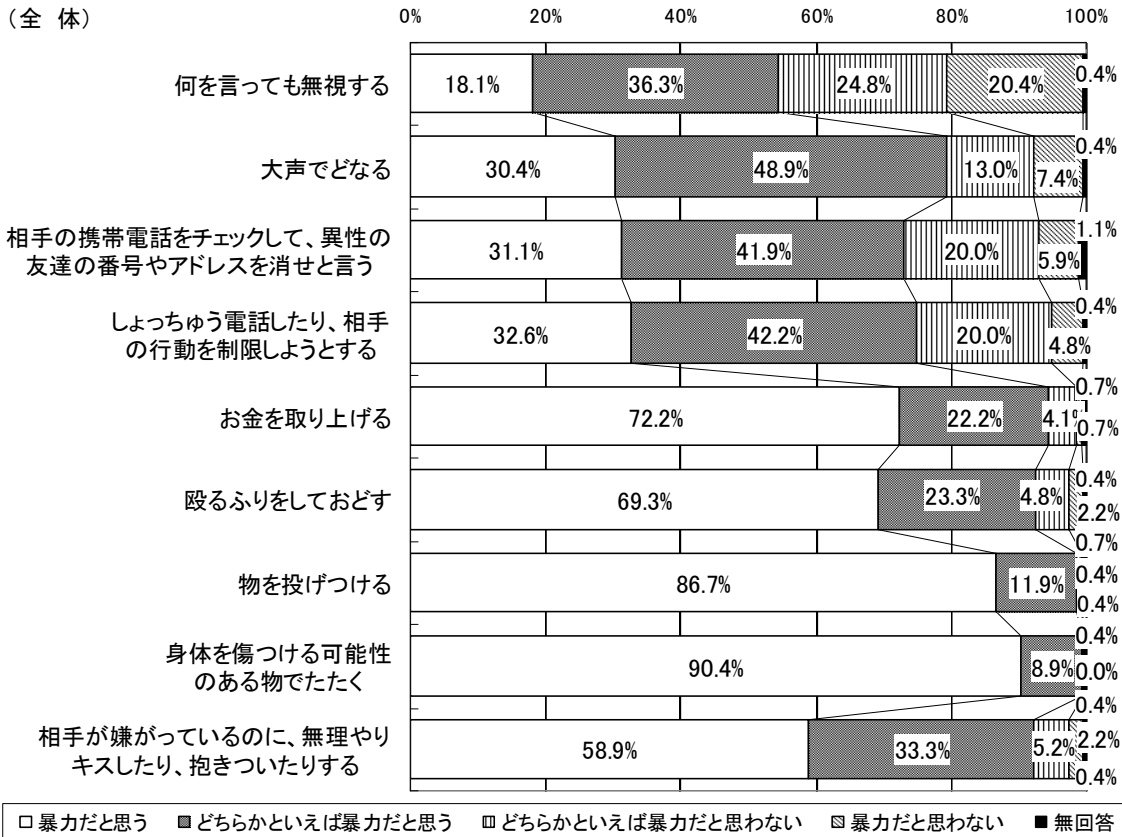


「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」という考えに対しては、反対意見の割合（賛成意見：14.0%、反対意見：54.3%）は男性のほうが、賛成意見の割合（賛成意見：26.3%、反対意見：46.8%）は女性のほうがそれぞれ高くなっています。

4. 暴力に対する意識について

設問 あなたは、夫婦や恋人同士で起こる次のようなことを暴力だと思いますか。

(○はそれぞれに1つ)



《全 体》

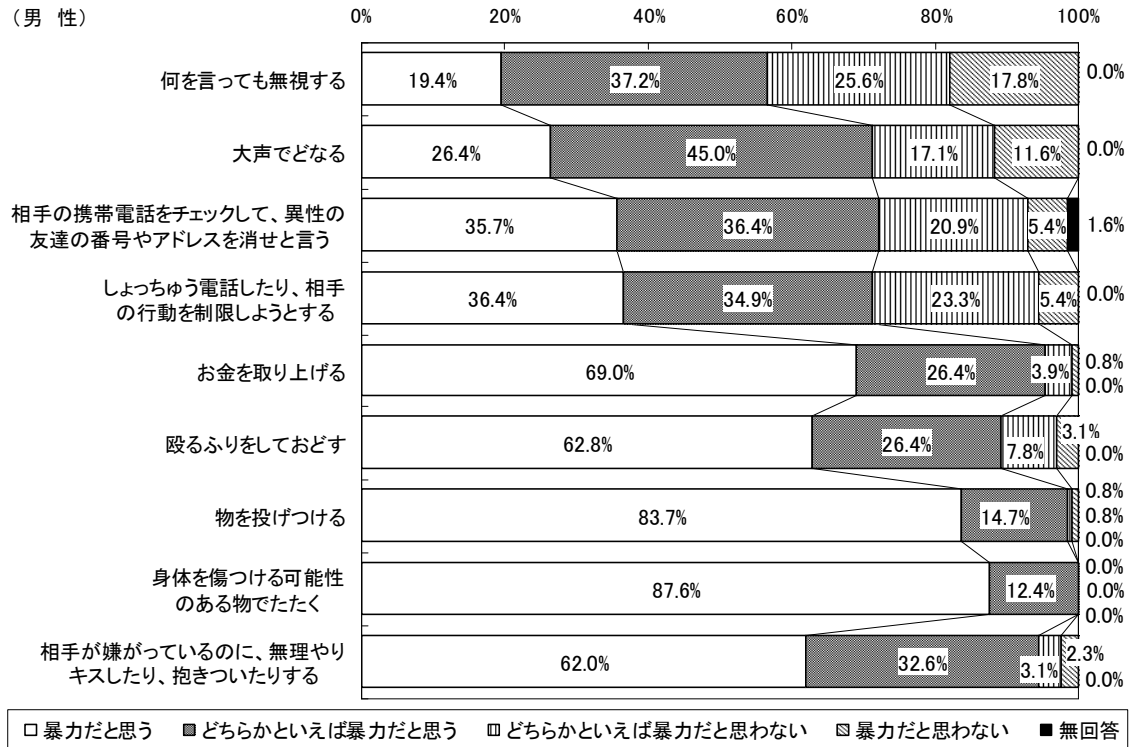
DVにあたる行為を、暴力だと認識しているかどうかについて、「物を投げつける」「身体を傷つける可能性のある物でたたく」「相手が嫌がっているのに、無理やりキスしたり、抱きついたりする」といった、身体的暴力及び「殴るふりをしておどす」「お金を取り上げる」に対しては、大半の人が「暴力だと思う」または「どちらかといえば暴力だと思う」と回答していて、暴力であると考えて意識が高くなっています。しかし、「何を言っても無視する」「大声でどなる」「相手の携帯電話をチェックして、異性の友達の番号やアドレスを消せと言う」「しょっちゅう電話したり、相手の行動を制限しようとする」では、「暴力だと思う」の回答は18.1～32.6%であり、身体的暴力などに比べて精神的な暴力は、暴力であるという認識が低いと言えます。

設問 あなたは、夫婦や恋人同士で起こる次のようなことを暴力だと思いますか。

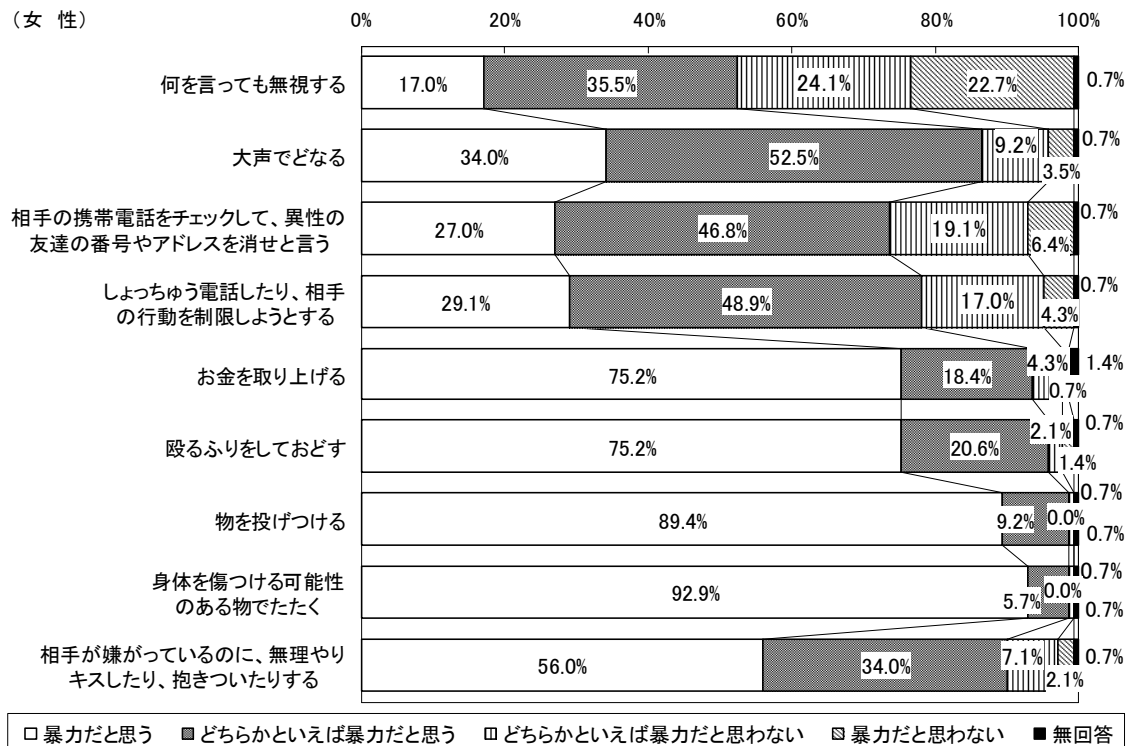
(○はそれぞれに1つ)

【性別】

(男性)



(女性)



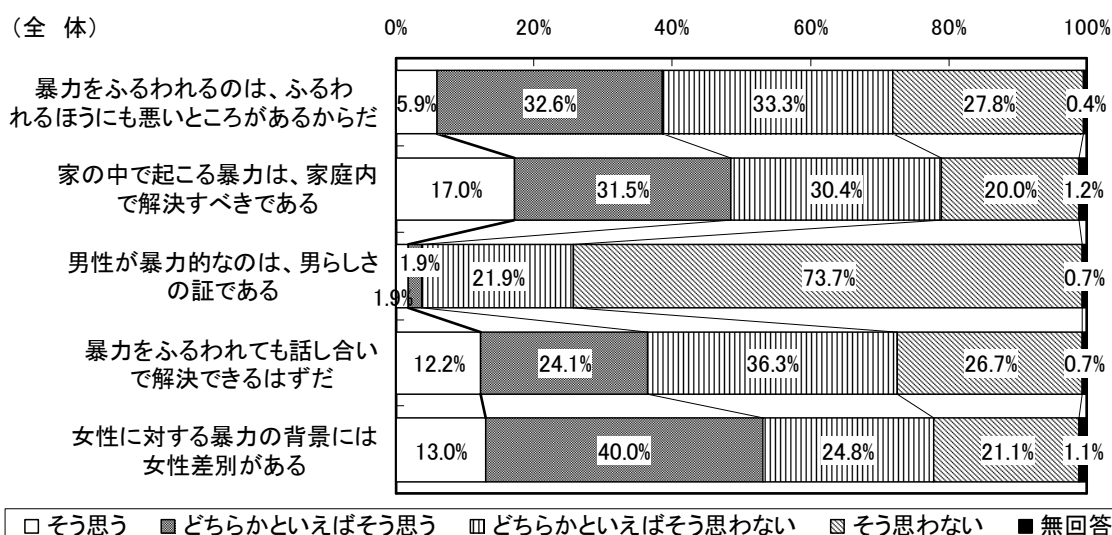
《性 別》

身体的暴力、経済的暴力に対する暴力の認識に比べて、精神的暴力や行動の制限が暴力という認識が低い傾向は、男女ともに同様です。

全般的に男性より女性のほうが、ほとんどの項目において暴力だという認識が高くなっています。「大声でどなる」「殴る振りをしておどす」「しょっちゅう電話したり、相手の行動を制限しようとする」では、男性において暴力という認識が低くなっています。

設問 次の考え方について、あなたの考え方に一番近いものに○をつけてください。

(○はそれぞれに1つ)



《全 体》

暴力に対する考え方について、肯定意見(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計)と否定意見(「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計)でみると、「暴力をふるわれるのは、ふるわれるほうにも悪いところがあるからだ」では、61.1%が否定意見ではあるものの肯定意見が38.5%になっています。

「家の中で起こる暴力は、家庭内で解決すべきである」は、否定意見が50.4%とやや高いものの肯定意見が48.5%になっています。

「男性が暴力的なのは、男らしさの証である」は、否定意見が大半を占めています。

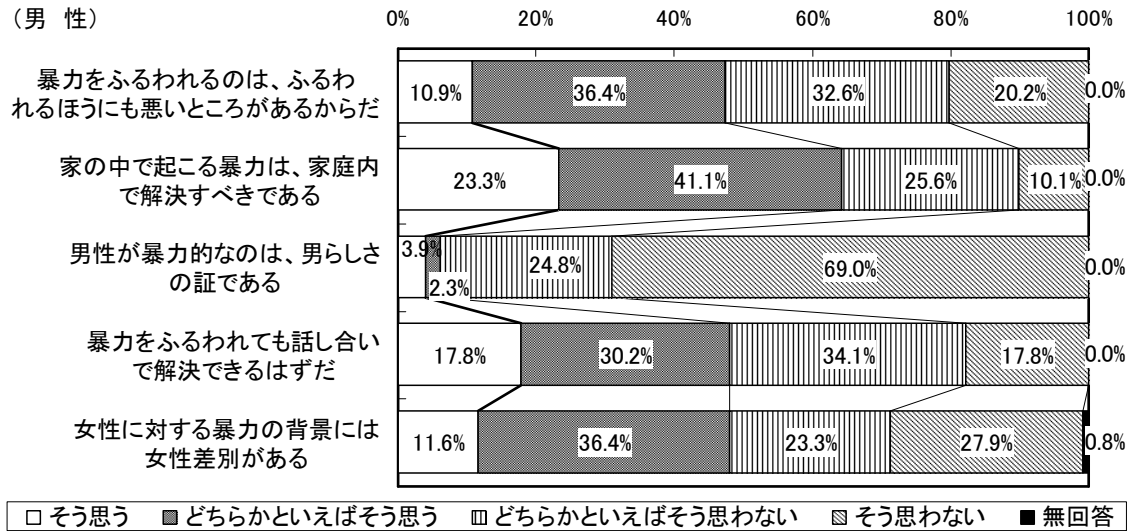
「暴力をふるわれても話し合いで解決できるはずだ」は、否定意見が63.0%ですが、肯定意見も36.3%になっています。

「女性に対する暴力の背景には女性差別がある」は、肯定意見が53.0%とやや高いものの否定意見が45.9%になっています。

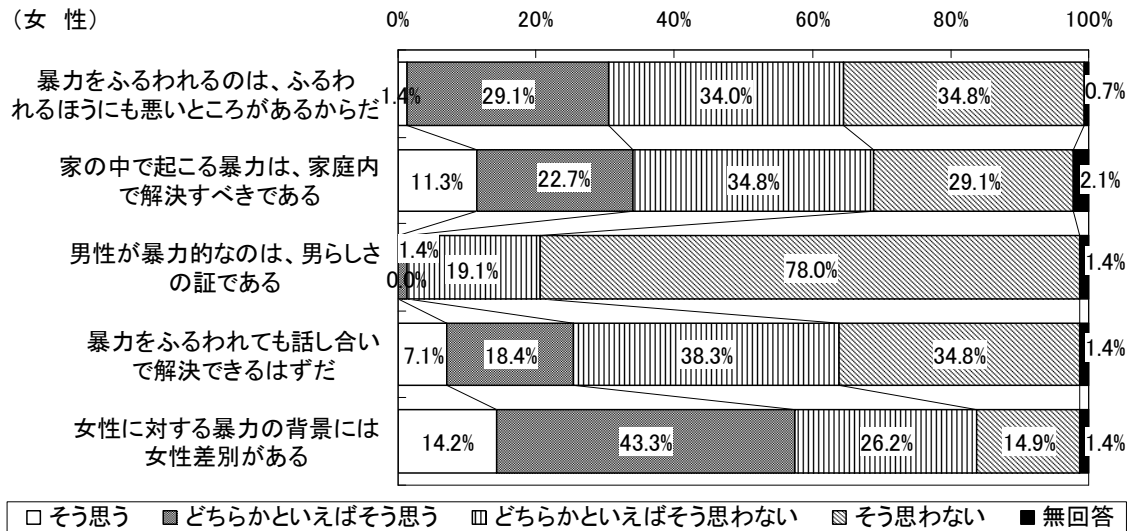
設問 次の考え方について、あなたの考え方に一番近いものに○をつけてください。
(○はそれぞれに1つ)

【性 別】

(男 性)



(女 性)



《性 別》

女性より男性において、「暴力をふるわれるのは、ふるわれるほうにも悪いところがあるからだ」(47.3%)「家の中で起こる暴力は、家庭内で解決すべきである」(64.4%)「暴力をふるわれても話し合いで解決できるはずだ」(48.0%)の3項目で、肯定的な割合が高くなっています。

男女ともに、「男性が暴力的なのは、男らしさの証である」について、否定的な認識が高く、90%以上の割合になっています。

自由意見のまとめ

アンケートの最後に、男らしさ、女らしさについて感じる事や人から言われて嫌に感じる事などを自由に記述する設問を設けました。以下、全ての意見を掲載いたしました。

- ・大切なものを守り抜くものが男らしさである【男性】
- ・男性が強ければいいのではなく、女性が必ずしも家庭的であるべきというわけではなく、男女関係なく自由に生きるべき【女性】
- ・全部が嫌だ【女性】
- ・「男らしさ」「女らしさ」という言葉自体嫌い【男性】
- ・格好のこと服装のことについて「スカートはいたら」みたいなのを言われると少し嫌だ【女性】
- ・男は女を守るべきだ。男は何があっても女性に手を上げてはいけないと思う【女性】
- ・男性も女性もお互いのことを思いやる事が出来ているなら暴力などはしないと思う【男性】
- ・女性だからといって家事が出来るわけじゃない【男性】
- ・男らしさと女らしさは大事だと思います【男性】
- ・亭主関白、男尊女卑【女性】
- ・「死ね」等を冗談で言っているつもりでも、大分傷つく【男性】
- ・女のくせにとか【男性】